

平成25年度草の根・人間の安全保障無償資金協力  
「ウッタラプラデシュ州における貧困層患者のための網膜手術機器等整備計画」  
引渡式の実施

平成26年12月22日、ウッタラプラデシュ州ノイダ県において、平成25年度草の根・人間の安全保障無償資金協力「ウッタラプラデシュ州における貧困層患者のための網膜手術機器等整備計画」の引渡式典が開催され、貧困層患者の眼科治療用機器がイシュワル慈善団体（Ishwar Charitable Trust）に引き渡されました。

本件式典には、インド政府からマヘシュ・シャルマ閣外大臣（観光、文化及び民間航空担当（専管））及びアマタブ・カント商工省産業振興・政策局次官が、団体側からスシル・チョードリー会長が、当館から八木毅大使が出席しました。

本案件は、総額82,031米ドルのプロジェクトで、イシュワル慈善団体がウッタラプラデシュ州ノイダ県で運営している眼科病院「アイケア慈善病院」に、貧困層患者に眼科治療を行うための網膜手術機器等を供与するものです。

イシュワル慈善団体は、1983年に非営利団体として設立され、アイケア慈善病院を拠点として、ウッタラプラデシュ州、ラジャスタン州、ハリヤナ州の農村地域及びデリーのスラム地区において、貧困層の患者年間約14万人に対する巡回検診や治療を無償で提供してきました。近年、貧困層の患者への白内障や網膜剥離等の治療の需要が増大していることから、今回、網膜手術機器等の先進的な眼科医療機器の供与を行うこととしました。

今回の草の根・人間の安全保障無償資金協力により、先進的な眼科医療機器の供与を通じてインドの貧困層の人々の眼科医療環境の向上に寄与するとともに、日本とインドの友好・協力関係が更に強化されることを期待します。



（テープカット（左からカント次官、八木大使、シャルマ大臣、チョウドリ会長）



（細隙灯顕微鏡の説明を受ける関係者）